



JHFレポート

2

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

1999年2月号

役員選挙公示

公示日 平成11年1月11日

「社団法人日本ハンググライディング連盟定款」第20条(役員の任期)により平成11年3月31日に現任役員の任期が満了となります。

任期満了にともなう役員選挙を「役員選挙並びに選挙管理委員会に関する細則」に従い右記のとおり行うことを公示致します。

社団法人日本ハンググライディング連盟
選挙管理委員会 委員長 長谷川 光雄

改選役員数

立候補受付開始日

立候補締め切り日

立候補者公示日

選挙投票日

投票場所

理事 6名以上11名以内

監事 2名以内

平成11年1月11日 午前10時

平成11年2月12日 午後5時

(立候補届が郵送の場合は、当日消印有効とする)

平成11年2月25日

平成11年3月17日

社団法人日本ハンググライディング連盟総会会場

JHF 選挙管理委員会から役員選挙のお知らせ

選挙管理委員会 委員長 長谷川 光雄

日本ハンググライディング連盟(JHF)選挙管理委員会は1999年1月11日付けで、JHF役員選挙の公示をいたしました。

選挙は、1999年3月17日に予定されておりますJHF通常総会において、都道府県連盟(JHF正会員)の投票によって行われます。役員選挙では、監督官庁である文部省の指導に従って理事の定数内に女性・男性それぞれを確保する枠どりが設定されております。

社団法人であるJHFの経営者として、偏りの無い広く自由な候補者の中から役員が選ばれることが期待されておりますので、意欲のあるフライヤー各位の立候補をお願いします。

選挙においては、立候補者の中から下記の規定により理事及び監事が選出されます。

理事:1)立候補公示者のうち男女各2名の上位得票者 計4名
2)残る立候補公示者のうち上位得票者から7名 合計11名
監事:立候補公示者のうち2名の上位得票者

立候補の手続きは下記の手順により行ってください。

- 1.JHFから都道府県連盟に配布された資料を読んで、役員の業務内容などを理解したうえで立候補の判断をお願いします。
- 2.所定の立候補届用紙に記入の上、必要書類を添付し、所定の用紙に立候補の理由などを記した立候補文(800字以内)を添えて、居住する地域の都道府県連盟の推薦印を受けてください。

3.必要書類は以下のとおりです。

- ・公示日から遡って3ヶ月以内に取得した住民票
- (所属する都道府県連盟の所在地と一致するもの)
- ・JAAフライヤー登録証のコピー
- (選挙公示日1999年1月11日の時点で有効のもの)
- ・理事への立候補者が下記5.に該当する会社の職員である場合は、その会社の登記簿謄本
- (監事の立候補者は必要ありません)

4.立候補届用紙、立候補文記載用紙及びその他の資料は都道府県連盟またはJHFから入手してください。

有資格者と選挙管理委員会が認めた立候補者の立候補書類は1999年2月25日の立候補者公示日に都道府県連盟に対して公示されます。なお、立候補届の記載事項は太枠内、立候補文は用紙の枠内に記載された800字のみが公示されますので、枠外にはみ出して記載しないようにまとめてください。

5.理事の選挙のみ、以下の規定に該当する会社の役員及び個人事業主は立候補できません。

ハンググライダー・パラグライダーの機体・ハーネスの製造・輸入・販売、スクール・エリアの運営、専門誌の出版上記いずれかに該当する会社の職員の方が理事の選挙に立候補される場合は、会社の登記簿謄本を提出してください。登記簿謄本により上記の会社の役員でないことが証明されれば、立候補が認められます。

6.以上の書類を立候補締切日の1999年2月12日までに下記宛に提出してください。

(郵送の場合は当日消印有効。ただし、締切

日発送の場合はJHF事務局へその旨電話連絡のこと)

〒105-0004 東京都港区新橋2丁目5番6号
大村ビル4階 電話03-3592-2651 社団法人
日本ハンググライディング連盟事務局気付
選挙管理委員会 委員長 長谷川 光雄

尚、不明な点につきましては、居住する都道府県の連盟にお問い合わせください。役員選挙公示と、本文「お知らせ」およびその他の資料はJHFインターネットホームページにも掲載されております。

都道府県連盟の最新の連絡先は、JHFホームページ上で検索可能です。

空のかお

その17



小田 茂夫(おだしげお)さん
小田 啓子(おだけいこ)さん

パラグライディング体験に家族で挑戦したのが空との最初の出会い。P証まで取得した茂夫さんが熱中していた本格的登山が一段落したのを機に、啓子さんもスクールに入校。お二人で大空を舞う日も近いことではなさそう。

委員会の動き

PG競技委員会 委員長 岡 良樹

99年度のPG日本選手権の開催地が新潟県尾神岳に決まりました。

SPSに参加可能な機体として、99年度は先月お知らせした内容をそのまま適用せず、昨年度参加できていた機体は、JHSC (JHTC)登録をさせれば、参加できる事としました。なお、この特別措置は99年度のみで、2000年度からはルール通りとなります。

99年度からジャパンリーグがスタートします。このジャパンリーグはこれまでのポイントシステムが海外の大会もポイント計上できていたのを、国内の大会のみのポイントでランキングをつけるところが大きく違う点です。その他のルールはこれまでのポイントシステムと同じものになっています。そしてこれまでのポイントシステムは国際ランキングとなり、国際大会への日本選手選抜のための国際選抜ランキングに使用します。これは国内でのポイント大会の活性化と、ポイント参加選手の増加を期待して企画されたものです。

新しいルールブックはもうでき上がって、JL、SPS、XCLエントリー者、JHF正会員及び昨年の大会開催者に配られている事と思います。その他に必要な方はJHF事務局までご連絡ください。

HG競技委員会 委員長 大澤 豊

ハンググライディング・ポイントシステムの競技ルール改訂後、第1戦目となった第10回丹沢スカイグランプリが1998年12月30日から1999年1月3日の5日間開催されました。新ルール施行に関するご意見、

ご感想をお寄せください。

さて、クラスのパイロットに朗報です。3月に開催されるHG日本選手権in広島にてクラスの大会が併催される予定です。(ただし、開催する最小人数10名)

尚、昨年12月に、1998年ポイントシステム登録者へポイントランキング表暫定版を送付いたしましたが、1ページ目の印刷が薄くて見づかったことと、ページの順番が間違っていて綴られたことをお詫び申し上げます。HG競技委員会事務局 FAX 029(44)1346 <http://tomato.saino.ne.jp/~haku/JHF-HG.html>

教習検定委員会 委員長 島野 広幸

12月3日に、無事98年度JHFハング・パラグライダー教員研修検定会を終了しました。参加者や検定員の努力の甲斐があって、年を重ねるごとに合格者の技術・知識のレベルも向上しています。安全に楽しくスカイスポーツを普及・振興させることのできる21名の新JHF教員を加え、1999年の大空が益々にぎやかになることが予想されます。

また、特別講師の後藤望さんが行った、パラグライダーにおける脊椎等の骨折に対する対処方法や足首の捻挫・骨折予防のためのテーピングなどをはじめとする救急法についての講義は、実践的で興味のあるものでした。各都道府県連盟で行われる安全セミナーなどで消防署の救急法を採用しているケースがよく見受けられます。これは一般的な事故や怪我についてのものであり、パラグライダーの場合には多少の応用が必要なようです。これらの内容については、今後テキストにも採用していく予定です。

制度委員会 委員長 小林 秀彰

JHF総合改革委員会で検討されている、普通会員制度(JHFフライヤー登録制度)が実施された場合の「都道府県連盟規約」の問題点を検討し、制度委員会として「都道府県連盟サンプル規約」をJHF総合改革委員会に提出しました。

これは、沼田委員に原案を作っていたいただき検討を重ねてきたものです。今後さらに検討を加え、よりいいものに仕上げたいとがんばっています。

補助動力委員会 委員長 山崎 勇光

補助動力付PG(MPG)と補助動力付HG(MHG)のフライト手帳ができました。皆さんの今後のフライトに役立てていただければと思います。手帳の内容は、以下のとおりです。

1. MHG・MPGの歴史と現在
2. 各種規定
 - 各種定義
 - MPG但馬合意覚書
 - 日本選手権規定
 - 日本選手権開催規定
3. フライトマナーと安全対策
 - フライト準備
 - 基本フライトルール
 - フライトエリア・空域ルール
 - 安全対策
 - フライヤー登録
4. 歴代日本選手権ベストテン
5. 全国各地のフライトルール
6. 技能証取得者名簿
7. 全国都道府県連盟所在地

JHF 総合改革のあゆみ

『(社)JHFフライヤー会員規定(案)』
まとまる。

JHFの総合改革は、「フライヤー登録制度」のJAAからJHFの移管を中心に、制度・規約等の整備を主として検討を進めています。先月号では、その図式(案)をお知らせしました。

その後、12月5日の総合改革委員会では普通会員規定(案)について検討。ここでの課題は、JHF普通会員規定とフライヤー

登録規定をどのように合体させるか、でした。原案をたたき台として検討。まず、規定名を「JHF普通会員規定」としないで、『(社)JHFフライヤー会員規定』とすることになりました。これは、JHFの個人会員を普通会員と呼んでも、説明を加えないとわからないこと、個人会員=フライヤーであること、JHFがフライヤーで組織されている連盟であること、フライヤー登録の呼称が定着していること等の理由によります。

総合改革委員会 委員長 川添 喜郎

この、『(社)JHFフライヤー会員規定(案)』は、次の10項目全16条により、構成されています。

〔前文〕、〔目的〕、〔定義〕、〔入会および登録〕、〔会員登録番号〕、〔会費〕、〔権利〕、〔特典〕、〔第三者賠償〕、〔雑則〕

委員会では、全条にわたって検討を加え、理事会への答申案をまとめました。答申案が1月理事会で承認されますと、正会員に総会議案として送付されます。

日本ハンググライディング安全性委員会(JHSC)議事録

日時:1998年11月19日(木)13時~17時
場所:航空会館6階602会議室
出席委員:阿部郁重、斎藤紀、岡良樹、小宮國男、下山進、泉秀樹、幸路尚文
オブザーバー:伊藤敏雅
機体登録申請者:ヘリグライド(株)トレッキングジャパン

技術部会(型式登録審査)
パラグライダー・新規登録

・カスタムセール式 VRX-SMALL型(合格:PI-651)
・カスタムセール式 VRX-MEDIUM型(合格:PI-652)
・カスタムセール式 VRX-LARGE型(合格:PI-653)
・FLIGHT DESIGN式 S2-26VT型(11/26付合格:PI-654)
・DELTA FLY式 HELIX-M型(11/26付合格:PI-655)

定例委員会 議事

・幸路委員が、SPS制度の本格的な実施を機にメーカー、ディーラーに型式登録の意義をより深く認識してもらう方を提議、その実施について討議が行れた。
・JHSCの作成した事故報告の概要を、できるだけ早くJHFレポートに掲載するよう努力することで合意。

12月3日、1998年度JHF教員研修検定の全日程が終了した。さっそく教習検定委員会が可否を判定。ハンググライディング1名、パラグライディング20名、合わせて21名が合格、教員証を手にするようになった。合格者は7ページに掲載。

JHFは「ハンググライディングスポーツの中心となって活躍する理想的な教員を育てる」ために、教員研修検定会を毎年開催している。すでに助教員として1年以上の学習・経験を積んだ人が対象。「飛行実技」「教習実技」「学科」の三つの検定が行われ、そのすべてに合格した人がJHFの教員として認められる。今年度から、2年度にまたがって三つの検定に合格すればいいことになったので、これまでのように一つ落としたり次年度にすべてやり直しをする必要はなくなり、受験者の負担が少し小さくなった。

今回も、まず飛行実技検定が行われた。ハングは11月に茨城県で。パラは同じく11月に山形・福岡・茨城県で。競技者と違って、教員は「パイロットまでの基礎的な技術や知識をしっかり身につけ、それを指導できる」ことが最も大切。検定では、練習生に手本を見せることを想定して、初歩的な課題で安全かつ正確にメリハリのきいた飛行ができるかどうか、チェックされる。

しかし、どんな飛行をすべきか、初めての受験者にはわかりにくい。そこで、模範演技（飛行）がどんなものか、視覚から理解してもらおうと、教習検定委員会は前回までの検定の様子を撮ったビデオを編集し、事前に各受験者に配布した。「いい例、悪い例がとてよくわかって参考になった」と、好評。

検定本番は、どんな気象条件になるか、わからない。最高のコンディションではない場合も多いが、これまでも今回も、ライズアップ、グランドハンドリングといった基礎がよくできていない受験者が、残念ながらいた。ソアリングが誰よりうまくても、基礎的な手本が見せられないのでは、教員として失格だ。教員をめざす人は、まず基本をしっかり身につけてほしい。

飛行実技の次は、教習実技と学科検定だ。前回までは東京都内で行われていたが、今回は群馬県水上町の中央公民館で、12月1日から3日まで、ハング・パラ合同開催。専門家を講師に招いて研修。そして、練習生に正しくわかりやすく気象や飛行理論、ルールなどを教習することができるかどうかを見られる教習実技。最後に、正しい知識を持っているかどうか判断される学科検定が行われた。

これまで、講義の時間が長く、また課目も多かった。しかし、短時間に説明しきれないことも多く、詰め込み式になってしまい、実際の教習場面で十分に活かせないことも。そこで教習検定委員会は、講義を主要なものに限り、教習実技の勉強に多くの時間を投入。ハング2名、パラ24名の受

験者を4グループに分け、教習テーマを個人ではなくグループごとに与えた。検定本番で誰がどのテーマにあたるかわからず、グループ全体で六つあるいは七つのテーマを、どのように教習すべきか話し合いながら、他の受験者の考え方に触発されたり、自分の思い違いに気付いたり、収穫が大きかったようだ。

頭では理解していても、それを練習生にはっきりした言葉でわかりやすく説明するのは、難しい。指導経験の少ない助教員にとって、この教習実技検定はまさに「試験の時」となる。そこで、これに研修の重点をおき、夜遅くまで勉強が続けられた。受験者は「こんなに勉強したのは、社会に出てから初めてだ」と、異口同音に。「思いきってやり方を変えて、いい結果が得られました」と、島野広幸教習検定委員長。

検定の最後は、教員として必要な知識を持っているかどうかを試すペーパーテスト。予めどんな傾向の問題が出るかわかっているせいか、人前で発表する必要がないためか、学科検定は26名全員が合格した。

教員研修検定会は、JHFの主要な事業のひとつだ。教習検定委員会のメンバーが長い時間をかけて準備し、実施にあたる。受験者はたいへんだが、委員たちもかなりハードな仕事をこなさねばならない。島野委員長は、「7名の委員がほぼ同じ検定基準を持つことができ、『教員レベルはこのへんだ』というのが見えてきたので、可否判定もスムーズになりました。飛行実技のビデオ配布や、教習実技の勉強にウエイトをおいたのは成功だったと思います。次回もこういう形でしたいですね。欲をいえば、教員の養成学校みたいなことをやりたいけれど、参加者の時間やお金の負担が問題です」と、今回の教員検定を振り返る。

1999年度の教員検定に向けて、委員会は準備を始めている。熱意ある助教員の皆さんも、教員めざして準備をしてください。

＊

今回の21名の合格者のうち、各検定で成績優秀だった3人に検定の感想を聞いた。



江本 崇彦（えもとたかひこ）さん
山梨県在住。23歳。PG歴4年半。職場の仲間から誘われ飛び始め、はまってしまった。仕事を辞め、レーシングチームのパイロットを経てインストラクターに。今年は郷里福岡に近いところでスクールを開きたいという。飛行実技で一番の成績だった。

模範演技は風が弱い時だったので、やりやすかったですね。大きな動作で飛んで見せることに慣れているので、適度におさえ飛びました。一緒に受験した人で、明ら

かに練習不足の人がいたのが気になります。ビデオは参考になったし、教習実技のグループワークで他の人の意見を聞いたのは、いい勉強になりました。ほとんど眠る時間もなかったけれど……。教員は、生徒との信頼関係が大切だと思っています。まず「楽しむこと」から入ってもらって。安全第一で、条件のいい時にこんなに楽しんだ、簡単なんだということをお伝えしたいです。もちろん危険回避の方法もしっかりと。



金井 泉（かないいずみ）さん
山形県在住。35歳。PG歴8年だが、二度の出産でブランクあり。三児の母。連れ合いと結婚前に同じ趣味を持ちたいと飛び始め、結婚と同時に二人ともスクールスタッフに。96年、十分一山で自分たちのスクールを持つ。教習実技でトップの成績。

飛行実技の検定が地元でやってもらったので、ラッキーでした。子どもがいるから遠出するのはたいへんなんです。水上での3日間はハードでしたが、ためになりました。本当に行ってよかった。自分では正しいと思いこんでいた教え方を、よりよく直すことができ、よかったと思います。これから教員として、飛ぶことの楽しさを伝えて、先につなげていきたいですね。それから、安全面を考えてくれるフライヤーを育てたい、そう思います。



梅迫 賢一（うめさけけんいち）さん
兵庫県在住。28歳。PG歴11年。高校生の時に新聞でPGを見て「ボクの求めていたのはコレや！」と飛び始める。一度は就職したが辞め、PG中心の生活に。岩屋山の麓に住み、八千北のスクールで教える。学科で一番だった3人のうちのひとり。

飛行実技は、教員のわりにあんまり難しくなアと思いました。研修でグループに分かれて発表があったのは、ためになった。僕はいつも話し口調で説明しているから講義みたいなのは苦手です……。今回の経験は今後活かせると思います。後藤望さんの緊急時の処置についてのお話は参考になりました。もっと突込んだところまで聞きたかったなア。僕はパラが好きだからやっている。だから、始めたばかりの人に夢のある話をして「おもしろいやで」って伝えたい。そして、技能に合わせてキメの細かい技術指導をしていきたいと思っています。

1998年11月14日・15日の2日間、山形県十分一山で開催した「スカイフェスティバル」の様子をレポートします。

*

14日、雨。なんとなく不安。やはり雨降りて飛べなかった去年のフェスティバルを思い出してしまう。

気を取り直して開会式を行う。年に一度のお祭りを盛り上げようと集まった県連メンバー約100人は、雨の日対策の紙飛行機大会で少し盛り上がり、次は実行委員会期待のオリエンテーリング。各チーム、車に乗ってスタンバイし、ゲートオープンを待つ。なんとなく緊張感がたどい競技会風になり、スタートのコールで、地図の目的地に向かって出発。

各パイロンでは難しい問題が出され、回答できずに同じコースを行ったり来たりしていたチーム多々有りと、本部の無線に入る。しかし、後で聞いた話では、難問を引き当てたチームもすべてゴールまで辿り着いたとのことで、事務局の心配した迷子探しゲームはやらずに済んだ。

テイクオフで待ちのメンバーは、山形大学YUPCの学生さんのココア、たまこんにゃく、白鷹クラブの肉まん、あんまなどであったまっていた。とってもうまかった。出店していただいたクラブさん、ありがとう。

夕方、恒例となった県連総会を軽くやって、パーティー会場の羽黒荘へ移動する。十分一山は南陽市の赤湯温泉にある。まず露天温泉に入って、今日飛べなかったのは誰のせいかを討議するが、やはり回答は出ず、パーティー会場になだれこんだ。さすが学生の皆さんは乗りの良い飲みっぷりで、他を圧倒する。各クラブの紹介が終わった頃には、正体不明のパイロット多数で、1日目は終わってしまった。

2日目、ついに飛べるコンディションと

なり、皆さんニコニコとセットアップ。ハングの爆弾落とし、パラの水運びレース、タンデム体験フライトと、次々テイクオフ。回収班が間に合わないほど飛んでしまい、ランディングは大渋滞。さらに風もあがってきてソアリングが始まる。得体の知れない女子高生が頭の上をふわふわミニスカートで飛んで良い景色だったり、タイタニックに乗った青い鳥とか、スペースシャトルのグレンさんとか、年とった孫悟空がきんと雲に乗ってきたりと、なかなかの盛り上がり。やはり仮装フライトはええなあと思ったのは、事務局だけだったろうか。

今回のフェスティバルは、県連各クラブが協力した結果、皆かなり楽しめた。この楽しみがこれからも広がれば良いなあ。

後援していただいた、南陽市、マウンテンゴリラPGクラブ、蔵王坊平PGスクール、とんびクラブ、トントンとんびHG&PGスクール、バードアップHGクラブ、酒田PGクラブ、OPGクラブ、ソアリングシステム、YUPC、蔵王PGクラブ、エクステンPGクラブ、庄内スカイスポーツクラブ、新庄スカイスポーツPG&HGクラブ、新庄スカイスポーツPGスクール、PGクラブ白鷹、葉山スカイスポーツクラブ、NOBエアファ



仮装フライトはフェスティバルの目玉。

クトリー HG クラブ、前森牧場フライトエリアの皆さん、ありがとうございました。

タンデムフライトをしていただいたパイロットの皆さん、出店していただいたクラブの皆さん、その他多くの協力でフェスティバルは成功したと思います。ありがとうございました。また今年も楽しくやりましょう。それまでアイデアを練っててくださいね。

PG 水運びレース

- 1位 YUPC 大島
- 2位 YUPC 衣袋
- 3位 ソアリングシステム 斉藤

HG 爆弾落としレース

- 1位 NOB エアー 佐藤
- 2位 とんび 町屋
- 3位 とんび 白田

仮装フライト

- 1位 今時の女子高生
- 2位 空飛ベケンちゃん
- 3位 孫悟空



みんなが協力して楽しめた。次回もよろしく。

'98 ハンググライディング日本選手権 in 広島、3月21日から開催。

3月21日(日)から1週間、広島県で1998年度のハンググライディング日本選手権が開催されます。要項は以下のとおり。

主催:(社)日本ハンググライディング連盟 主管:広島県ハンググライディング連盟、広島市ハンググライディング連盟 後

援:広島市教育委員会、(財)広島市体育協会 公認(財)日本航空協会 開催場所:広島県広島市神ノ倉山周辺フライトエリア 開催日:1999年3月21日(日)~3月27日(土) 競技方法:アウトアンドリターン、サーキットコース、ゴールレース(当日の気象

状況などに合わせて選択する) 予定参加人員:80名 問い合わせは、高見正治さん TEL090-3377-1911または TEL082-231-2023 (高見自動車内)まで。

昨年のブレ大会では、外村仁克選手が優勝。さて、本番で勝利を手にするのは.....

検定会開催予定(1998年12月20日現在)

PGNP: パラ・ノービスパイロット学科 PGP: パラ・パイロット学科 HGP: ハング・パイロット学科
XC: パラ&ハング・クロスカントリー学科 PW: パラ&ハング・補助動力学科

開催日	開催時間	開催地	開催場所	定員					主催者	主催者 電話番号	検定員
				PGNP	PGP	HGP	XC	PW			
1999/2/20(土)	18:00~20:30	茨城県新治郡八郷町	SET茨城	20	20				茨城県連盟	0299-43-6952	中島 栄一
1999/2/21(日)	18:00~20:00	神奈川県横浜市神奈川区	神奈川県民センター会議室	15	15	15	15	1	神奈川県連盟	0460-3-5391	宮田 富由
1999/2/28(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196	井藤 志暢
1999/3/28(日)	9:00~12:00	熊本県阿蘇郡阿蘇町	阿蘇ネイチャーランド	10	10		10		阿蘇ネイチャーランド	0967-32-4196	井藤 志暢

北海道ハンググライディング連盟

北海道スカイスports協会主催、当連盟協力で、毎年開催されている安全講習会。今回は、JHF教習検定委員会委員長の島野広幸氏をゲストに迎え、11月29日に旭川市で開催されました。

例年になく雪の多い北海道なのですが、各地から53名が集まり、午前中は消防救急隊による救急処置法の実技講習が行われました。午後から島野氏の講演となり、NHK熱中ホビー番組収録の裏話など盛りだくさんのお話で、たいへん楽しい一時を過ごさせていただきました。 吉野正規

青森県ハンググライディング連盟

青森県では、「スポーツに親しみ、スポーツに強い青森県」をめざし、1999年度に「スポーツ立県宣言」をすることになっており、各種イベントを計画中です。

その中で、PG日本選手権を誘致できないか、JHF理事会に申請中でしたが、12月17日の理事会で否決され、実現が夢と終わりました。また、同記念イベントのひとつとして、PG一日体験教室も計画されており、スカイスportsの普及に向けて、県連も協力態勢を組んで参画しております。

古川正司

宮城県ハンググライディング連盟

山間道路の閉鎖・スキー場の積雪情報・天気予報の雪ダルマなど、本格的な冬到来。そんな中、11月28日・29日の2日間、県南の城下町白石市で、県連主催のハング・パラ指導員講習会を開催しました。

初日は机上講義で、アクシデントをテーマに、日本赤十字社より講師を招き、緊急時の応急処置と運搬方法を、また、福島県連佐藤理事より事故発生後の対処等について事例をあげ解説していただきました。その他、調査・捜査を受ける時の心構えなど対応策を含め講義。

2日目は、指導者のレベルアップについて学科と実技指導をシミュレーションをまじえて行いました。各講義ごとに意欲的且つ活発な意見の交換があり、盛況のうちに終了。参加者一人ひとりの本音とひたむきな姿勢に頼もしさを感じるとともに、この



負傷者を運ぶ時には.....思わず力が入ります。

講習会が将来、県連の発展とフライヤーの質の向上に大きな役割を果たすような気がしました。 川越敬明

兵庫県フライヤー連盟

関西のパラグライディングのメッカとして有名な岩屋山で、10月31日・11月1日の2日間、当連盟主催の「第1回兵庫スカイフェスティバル」を開催しました。



ターゲット大会の上位チームの選手たち。

兵庫県でパラを楽しむクラブと20近くのスクールから、350名以上が初めて一度に集合。31日は餅つき等をして日頃お世話になっている青垣町の人たちと親睦を深め、夜は参加者とスタッフ全員でスカイフェスティバル懇親会を。みんなで飲んだり食ったりしながら、協賛メーカーの紹介や挨拶(宣伝?)各スクール・クラブの紹介(漫才?)を楽しみました。

翌1日は、各スクール・クラブの5人1チームでターゲット大会。また、フライトテクニックを診断してもらうクリニック、地元の人へのタンデムフライトサービス、そして試乗会を行いました。この日はターゲット大会にうってつけのコンディション。選手たちは次から次へとテイクオフし、ランディングへ直行。ターゲットと真ん中に降りる選手がいれば、アウトランする選手もいました。

一方この2日間、スペインチャンプのダニエル氏のアクロが行われ、見ていた人たちから歓声が起こり、着陸したダニエル氏に惜しめない拍手がおくられていました。



兵庫でPGを楽しむ人が初めて一度に集合した。

大会結果は以下のとおり。

- 1位 UP WINGS KANNABE
- 2位 UP JAPAN PGS
- 3位 さのう高原パラグライダークラブ
個人優秀賞
男性 川崎宏史 (UP JAPAN PGS)
女性 渡辺弘子 (さのう高原パラグライダークラブ)

佐賀県ハング・パラフライヤーズ連盟

12月5日、佐賀県のフライヤーズクラブの忘年会が唐津の長崎荘で行われ、約40名が参加しました。その場で、1999年4月から5月のどちらかにクラブコンペを開くことが決定。99%の安全と1%の冒険心でフライトを楽しむことをみんなで確認しました。 鶴丸敬明

鹿児島県ハング・パラグライディング連盟

11月21日・22日、「入来パラグライダーフェスティバルin98」が薩摩郡入来町で開催され、九州各地から46人の参加がありました。



楽しい仮装大会はギャラリーに大受けでした。

2日も渋いコンディションでしたが、仮装大会とシークレットパイロンレースができ、仮装大会はギャラリーに大受けでした。一般の部優勝は、狩川公男。2位に三本剛正、3位井浦久朝。レディースの部優勝、熊井みゆき。2位黒木悦子。仮装大会の部、会長賞に高橋律子。アイデア賞は黒木芳秀、ユニーク賞に加治誠二。以上が上位の人たちです。 黒木悦子

3月17日、JHF総会開催。

1999年3月17日(水)の13時から17時まで、東京の羽田空港ターミナルビル・ビッグバード、シリウスの間において、JHF総会を開催します。議題は、1999年度のJHF予算案について等々。また、総会と合わせて、次期役員選挙を行います。選挙の公示は、このレポートの1ページに掲載していますので、ご覧ください。

理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

12月理事会

1998年12月5日(土)13時30分～17時 東京都港区新橋スペースライン・Aルーム 出席：渡邊敏久、川添喜郎、鈴木康之、朝日和博、岩間雅彦、小林朋子、星野納各理事 欠席：関谷暢人、松田保子各理事 宮川雅博、坂本三津也各監事

日本レクリエーション協会について

川添副会長より、(社)日本レクリエーション協会の加盟について、説明あり。

HG競技委員会について報告

11月26日、和歌山県で行われたHG競技委員会について、小林理事より報告あり。

SPSルール改定について審議

SPS(スポーツパラグライダーシリーズ)のルール改定について、PG競技委員会から出された案を審議。以下の2点をルールブックに加えるという条件付きで、原案を可決した。

「制定の趣旨」を付け加える。

1999年は、暫定措置として「1998年に出場を認めた機体の出場を認める」旨を明記する。

1999年度JHF会計予算案について

来年度予算案審議を行う前に、1999年度JHF事業計画について協議することとした次回理事会で審議。

1999年度事業方針及び事業計画について総務局案を参考に、JHFの来年度事業方針及び事業計画について協議した。

CIVL議案について

議案の提案がないため、1999年3月開催のCIVL総会へ日本からは新規提案は提出しない予定。

1999年度PG日本選手権について

1999年度パラグライディング日本選手権の開催地として、新潟県尾神岳と青森県岩木山が候補にあがっている。PG競技委員会

に、検討を依頼することに。

役員選挙日程について

次期JHF 役員選挙の日程について、以下のとおり確認した。

選挙公示：1999年1月11日(月)

立候補受付：1999年1月11日(月)～

1999年2月12日(金)

立候補公示：1999年2月25日(木)

選挙投票：1999年3月17日(水)

1999年度JHF事業方針・事業計画・会計予算案等について審議するため、12月17日に臨時理事会を開くこととした。

*

「理事会ダイジェスト」は、理事会で話し合われたこと、決まったことのポイントをお知らせしています。理事会の議事録は各正会員(都道府県連盟)に送られるので、必要な方はそちらをご覧ください。

JHF 広報出版局

事故を考える MPG を安全に

新しい年を迎え、「今年の飛行目標」を考えた人は少なくないだろう。今年こそパイロット証を取る!とか、この春は100kmクロスカントリーを成功させる!とか、それぞれの目標があるだろうが、まずは安全を第一に。ハング・パラグライディングは自然のなかで楽しむスポーツだ。条件の悪い日が続くこともある。年内に目標に達することができなくても、どうということはない。無理をせず、十分な練習と準備を積み重ねていこう。

もちろん、フライヤーの誰もが「事故を起こしたくない」と考えているはずだ。しかし、それでも事故はゼロにならない。昨年も何件もの事故が発生した。ケガをした人、機体を壊した人、そして残念なことに亡くなった人も。二度と還ってこない人の家族や友人たちは、どんなに苦しく悲しい日々を過しているだろう。想像するだけでも辛い。1999年こそ重大事故が起きないように、誰も大切な人を失うことのないようにと、願わずにいられない。

*

事故の原因はさまざまだが、多くの場合、技術が足りなかったか、知識不足だったか、不注意だったか、無理をしたか、だろう。これらのすべてがあてはまるケースも、少なくないと思う。なんと「もったいない」ことが。20年以上も前に、日本にハンググライダーが登場して以来、フライヤーは同じような原因で事故を起こしているのだ。上昇気流に乗ることなど思ってもみなかった時代、機体を担いでガムシャラに斜面を駆け下りた時代には、安全のための情報も指導ができる人間も少なかった。しかし現在は、いろいろな方法で情報を得ることができる。先輩フライヤーたちが、恐い思いや痛い思いをしながら蓄積してきたノウハウがある。なのに、それが十分に

活かされず、繰り返さなくていい間違いが繰り返されているのだから、もったいない。

最近の事故を振り返ってみると、特に補助動力付きパラグライダー(MPG)で、今さら何故こんなことで……と思うような事故が目立つ。

MPGは平地で離着陸できる。「山から飛びパラグライダーは体力的にきついけど、MPGは楽に飛べるからいいよ」と、中高年の人にも人気がある。身近なところで誰でも気軽に飛行を楽しめる。こんないいことはないのだが、その気軽さが裏目に出る場合もある。

動力無しのパラグライダーなら、練習斜面での短い滑空から始まって、少しずつレベルアップしながら飛行の範囲が広がっていく。危険回避の方法や機体の回復操作なども、いろいろな条件の下で覚えていく。ところがMPGだと、その気になれば初心者でも、動力に助けられて広範囲を飛ぶことができる。そのため、飛行中に気象条件が変わったりしても、正しい判断や操作ができず、時には事故を起こすことになる。

事故は、本人だけでなく、周囲にも大きな影響を与える。場合によっては、その場所でのフライトが禁じられるかもしれない。そうなるからでは遅いのだ。MPGフライヤーは(もちろん他のフライヤーも)派手な飛びで注意を集めることより、いかに安全な飛びをするかを考えてほしい。飛行技術を磨くだけでなく、幅広い知識を身につけてほしい。

MPGでは、水の事故も目立っている。1997年には、川岸に着陸後、風を受けたキャノピーに引きずられて水没し溺死するという事故が起きた。海岸や河川敷で飛ぶ場合、水没の危険性は常にある。空では頼もしいパワーユニットもパラグライダー

も、水に入った途端、恐ろしい重石になってフライヤーを押さえ込み、巻きつき、深みへと引きずる。水深が浅くても、顔を上げて呼吸することができなければ、人間は死んでしまうのだから、油断してはならない。テイクオフの練習をする前に、MPGフライヤーは地上でのキャノピーの潰し方をマスターしておくべきだろう。

*

MPGも含む動力付きのパラグライダーで、フライトルールやマナーを守らない人がいると聞く。本人は「自由が好きだからこうして飛んでいるんだ」と言うかもしれない。しかし、思い違いをしてもらっては困る。ハンググライダーもパラグライダーも、動力が付いていてもいなくても、みんな約束事を守り、その範囲内で「自由に」飛んでいるから、社会も認めてくれるのだ。ルールを無視し自分勝手に飛ぶのは、自分自身の首を締めることになる。万一、事故を起こし第三者を巻き込みでもしたら、法律でがんじがらめになることもあり得る。そうになったら、誰が一番不便な思いをするのか、よく考えてほしい。

動力が付いているものは、騒音問題も付いてまわる。第三者への迷惑を最小限にするよう、努力しなければならない。また、人がいない広いところなら、どこでも飛べると思いこんでいる人がいるらしいが、どんな場所にも所有者や管理者がいる。「そこからテイクオフするだけなら、何の迷惑もかけないのだから、いいだろう」というのは、飛ぶ側の勝手な解釈だ。通すべきジはきちんと通して、気持ちよく「自由に」MPGフライトを楽しんでほしい。

JHF 広報出版局 松田保子
協力：泉秀樹・関谷暢人

大会報告

尾神岳スカイグランプリ(PG)

1998年10月24日・25日

新潟県吉川町尾神岳

- 1位 川地 正孝 1946点
- 2位 若山 朋晴 1891点
- 3位 加賀山 務 1781点
- 4位 古橋 顕士 1633点
- 5位 柏木 一実 1572点
- 6位 小幡 洋三 1546点

女子の部

- 1位 田中美由紀 1144点
- 2位 山本富士美 1095点
- 3位 神山 和子 957点

予想に反して2日間とも条件が良くなり2本の成立となった。尾神岳はあまり大きなタスクは組めないが、大会に不慣れなパイロットでも安心してフライトできるエリ

アのため毎回大勢の女性やポイント大会初心者に参加している。

平和カップ'98 イン広島(PG)

1998年11月21日～23日

広島市神の倉山、荒谷山

- 1位 山本 雅史 広島県 2000点
- 2位 長島 信一 埼玉県 1987点
- 3位 倉田 勇哲 広島県 1927点
- 4位 小島 章弘 神奈川県 1885点
- 5位 梅迫 賢一 兵庫県 1611点
- 5位 部 哲行 兵庫県 1611点

全体的には気象条件が今ひとつであったが、短いタスクながら4名の選手がゴールし良い競技内容となった。最終日は条件が良かったが残念ながらゴール者は出なかった。参加選手の多くが楽しんだと思う。

長野県選手権'98(PG)

1998年11月21日～23日

長野県生板村スカイスポーツ公園

- 1位 三島 康明 1000点
- 2位 長田 修一 627点
- 3位 天野 修 337点
- 3位 坂下 剛司 337点
- 3位 西野 智博 337点

女子の部

- 1位 川瀬ゆかり 277点
- 2位 畠山さちよ 277点
- 3位 増子 友美 277点

21日はキャンセル。22日は弱い北風が入ったので競技を行ったが、1つのパイロンもとれない状態で不成立。予備日の23日に1本成立した。

21名の教員が誕生。今後の活躍に乞う、ご期待！

12月3日の学科検定を最後に、1998年度JHF教員研修検定会の全日程が終了しました。ハンググライディング2名、パラグライディング24名が、飛行実技・教習実技・学科の三つの検定を受け、ハング1名、パラ20名、合わせて21名がめでたく合格。新教員としてのスタートを切った彼らの活躍に期待し、また、応援してください。

1998年度教員検定合格者

ハンググライディング

山本 雅久 千葉県

パラグライディング

- 井澤 豊 長野県
- 石井 泰司 静岡県
- 伊藤 敦彦 北海道
- 梅迫 賢一 兵庫県
- 江本 崇彦 山梨県
- 大串富美夫 静岡県
- 柏倉 剛 山形県
- 金井 泉 山形県
- 斉藤 雅一 東京都
- 篠崎 武史 茨城県

- 鈴木 邦雄 愛媛県
- 鈴木 達之 東京都
- 関 光義 埼玉県
- 滝野 和治 岡山県
- 辻 強 茨城県
- 中野 弘文 愛知県
- 丸谷 政則 奈良県
- 三浦 征三 秋田県
- 三嶋 康明 長野県
- 宮武 正之 埼玉県

以上21名

スクール情報の登録と更新をお願いします

JHFでは、全国のハンググライディング・パラグライディングスクールの活動状況を把握するため「スクール情報登録」を実施中です。各都道府県連盟を通じて登録されたスクールの活動内容は、JHFのホームページ上で紹介し、これから飛びたいと思っている人たち（もちろん他の人にも）

に情報を提供しています。

登録する情報は、主な講習地、講習内容、講習開催日など。登録料は1スクールにつき2,000円。毎年3月31日まで登録は有効です。インターネット人口がどんどん増加している現在、この登録は、スクールにとって大きなメリットがあるはず。スクー

ルを運営されている皆さん、ぜひ登録をしてください。また、すでに登録しているスクールは、3月31日に有効期間が切れますので、ぜひとも登録更新をしてください。登録申請用紙は、各都道府県連盟の事務局にあります。年度末ギリギリではなく、できるだけ早めに各県連にご連絡を。

国際技能記章検定員証の発行について

FAI国際技能記章の発行に向けて、JHFは準備を続けています。まずは、各地で検定を始められるように、国際技能記章検定員証を発行することから。1998年度発行の検定員証は、1991年にJHFが行った「FAI

国際技能記章検定員研修会」に参加した人が対象。参加者に案内を送付して当人の意思を確認、希望した人に検定員証を発行する予定です。

この研修会に参加した方で、JHF事務局

からの案内が1999年2月28日までに届かない場合は、事務局にご連絡ください。研修からだいぶ時間がたっているため、住所変更などで、案内が届かないことが考えられます。

事務局からお知らせ

学科検定員・助教員検定員の登録

1999年3月31日で、学科検定員の1998年度登録が終わります。1999年度の学科検定員および助教員検定員に登録なさる方は、あらためて各都道府県連盟に連絡し、県連

から推薦を受ける手続きをしてください。4月1日以降は、1998年度の学科検定員番号では、学科検定会の開催申請ができませんので、ご注意ください。

スクール情報登録について

JHFレポート1月号掲載のスクール情報登録一覧から下記スクールが抜けていました。関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこと、深くお詫び申し上げます。

登録No.	名称	住所	電話番号	HG	PG	PW
6701	リンクパラグライダースクール	大阪府大阪市淀川区東三国3-10-3-410	06-6394-0020			
6702	JMB関西パラグライダースクール	大阪府大阪市北区太融寺町8-2エーワンビル8F	06-6370-3073			
6703	ゼロパラグライダースクール	大阪府池田市神田4-14-2	0727-53-8890			
6704	アニッシュグライダースクール/HGコース	大阪府大阪市東淀川区豊新5-12-31	06-6327-5880			
6705	アニッシュグライダースクール/PGコース	大阪府大阪市東淀川区豊新5-12-31	06-6327-5880			

副会長 川添 喜郎

12月1日～3日群馬県水上町で開かれたJHF 教員研修・検定会に講師として出席。「スカイスports教育論・組織論」を50分講義。熱心な受講生の皆さんに逆に色々教えられました。3日間の研修会は教習検定委員会の周到な準備・委員の熱意で相当充実したものになり好評でした。委員の皆さん、受講生の皆さん、本当にご苦労様。

12月11日、小林朋子理事とともに「JAA 航空スポーツ連絡会」に出席。これは、かねてJHFよりNACに代わる委員会の開催を要望してきたことに応えられたもの。8団体の代表が出席し、各団体のトピックスの紹介や要望が出され、今後4回、継続して会合をもつことになりました。

12月16日、JAA 津田部長が異動のあいさつに来局されました。津田部長には1年半位でしたが、連盟の要望実現にお骨折り頂きました。また、角田航空業務室長も来局され、当連盟からの質問書の返書と今後の対応について協議しました。

いよいよJHF 役員改選が近づきました。役員はJHF(公益法人)の経営者です。私利私欲にとらわれない「良識」と「活力」をもった方々の多数の立候補を願っています。

常任理事 事務局長 朝日 和博

新年あけましておめでとうございます。私たちフライヤーがめざしているものは、大自然に抱かれた自由な飛行であります。できる限り環境にやさしくあり、多くの人びとと共生し、そして連帯して、いつまでも楽しくありたいと願っています。

今年も、すべてのフライヤーのためのJHFでありたいと思います。皆様のご支援をお願いします。

常任理事 岩間 雅彦

この文章が載るJHFレポート2月号には、3月の役員選挙の公示が掲載されると思います。現在の理事は9名であり、1997年の役員選挙において立候補者が他にいなかったために、いずれも無投票で選出されました。本来は投票により支持された人間が理事になるべきであり、無投票というのは健全な状態とは言えません。理事として仕事をする際にも都道府県連から積極的に支持されたわけではないということは負い目になります。今回の役員選挙にはぜひ多

くの方が立候補して欲しいと思います。

理事 小林 朋子

航空協会主催の「航空スポーツ連絡会」に出席しました。航空協会に所属する団体の代表と海外担当が出席していて、他の航空スポーツの活動や実状を知ることができて大変勉強になりました。グライダーやパラシュート、熱気球などの分野でも皆さん熱心に活動しているようです。FAI関連業務を担当している方々とお会いできて、これから私自身がどのように活動していったらよいか参考になるお話もできたので、非常に有意義でした。今後、この連絡会が充実して、分野を越えて航空スポーツの発展につながるよう協力していきたいと思います。

競技会は98年度の大会スケジュールがすべて終了しました。皆さんにとって、98年はどのようなシーズンだったのでしょうか。99年はルールの変更も予定されています。安全を第一にして、気分も新たに新シーズンに臨んでいただきたいと思います。

理事 星野 納

現在ニュースメディア等で問題になっている国・地方自治体の行政の在り方の一つに、「一度決めたら見直しをせず、何がなんでも突き進む。」という体質がある。JHFにおいても財政引き締め、折、「1年間だけHG・PG・補PGの日本選手権をお休みに？」という提案を非公式に出したところ、「一度決まったことだから見直しはできない。」と答えた理事がいる。そんなはずはない。ましてJHFのみならず、開催県連や開催地区自治体の財政も逼迫しており、考慮の余地は十分にある。

他に、「補PGのみ日選を中止すべきだ。」という提案もあった。理由は「補PGはFAIのスポーティングコードに競技規定がないから。」というもの。これは、まったく関係のない話だ。我々はFAIのために日選という名の大会を開催しているわけではない。床屋の技術を競う日本選手権も存在するように、技能証を発行しているJHFが選手権として開催すれば、それは紛れもなく日本選手権でありスポーティングコードも糞もない。この「補PG日選中止案」は来年度だけではなく恒久的な提案であり、理事会だけでは結論が出せない。

ただ、現在JMLがパワードとして同種の

日選を開催している現状で、全国フライヤーの「フライトモラルの確立」がなされないまま、普及を目的とした日選を継続していくことに、私自身毅然としないものがある。補助動力付PGには他にやらねばならないことが山積しているはずだ。

理事 松田 保子

JHFレポートのために、教員検定に合格した21人のなかの3人にお話を聞きました。3人とも、パラグライディングに出会い、のめりこみ、それまでの仕事を辞めてパラ色の生活を始めた人たち。「楽しさを伝えられる教員になりたい」と張り切る3人、そして他の新教員の皆さん、自分がハングやパラで感動した経験を大切に、その楽しさ・おもしろさを安全にたくさんの人に伝えていってください。教員証を手にするまで勉強をいっぱいする必要があったと思いますが、これから本番。学び続け成長を続けていかれますよう、お祈りしています。講習中には、胃が痛くなるようなことがいろいろあるでしょう。どうぞ健康に留意して、いつも余裕を持って指導にあたってください。

広報出版局から

ご意見、お待ちしております！

JHFレポート2月号は、いかがでしたか。初心者の方には、何だかわからないページもあると思います。ほぼ1年後にはフライヤー会員(普通会員)制度がスタートし、会員ひとりひとりにJHFレポートをお送りするようになる予定。それまでに、誰が読んでみてもきちんと理解できる内容にしていく必要があるでしょう。伝達事項ばかりでなく、読んでおもしろいものも載せたいですね。

なかには「連盟報なのだから、きちんと情報を伝えてくれれば充分だ」という人もいます。あなたは、どんなJHFレポートをお望みですか。どんなことでけっこうです。率直なご意見をお聞かせください。JHFレポートだけでなく、他のJHF出版物やホームページについてもけっこうです。JHF事務局内の広報出版局にFAXで、お待ちしております！

JHF ホームページもご覧ください。 <http://jhf.skysports.or.jp/>

JHF 技能証発行数 (1998年12月28日現在)					
ハンググライダー	P証	4,730	パラグライダー	P証	17,393
	C証	6,657		NP証	7,687
	B証	11,194		補助動力NP証	58
	A証	10,612		B証	38,147
	補助動力証	18		補助動力B証	120
	XC証	1,034		A証	41,010
			補助動力A証	144	
			補助動力証	864	
			XC証	3,208	

JHF レポート 2月号 (No.145)

発行日 1999年1月20日
 発行 (社)日本ハンググライダー連盟
 〒105-0004 東京都港区新橋2-5-6 大村ビル4F
 TEL.03-3592-2651 FAX.03-3597-0245

編集 JHF 企画部広報出版局

印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。